

公同礼拝

2023年6月18日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩編100編1, 2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 43章1～7節 (旧1130)

マタイによる福音書14章22～36節(新28)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 16

説 教 「恐れるな」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 126

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

6月の祈り

父なる神、御子イエス・キリスト、聖霊なる三つにして一つなる神のみ救いの確かさと恵み深さを覚えて。

御言葉によって創造主、救い主、祈りと慰めの主への信仰を確かなものとする事ができるように。

礼拝に集うことが困難な兄弟姉妹に主のみ手が伸べられ、信仰の歩みが守られるように。

コロナ禍からの回復が導かれるように。

戦火、紛争、圧政の下にある人々に平和と平安がもたらされるように。

今日の祈り

子どもたちが、愛されて成長し、家庭が守られ、健康に生き、紛争と暴力や虐待から守られ、平等に教育が受けられ、安心して生きることができるように。

愛する人を主の御手に委ねた家族を主が慰めを与え、力づけてくださるように。

体調を崩している兄弟姉妹が守られるように。

「恐れるな」 高橋和人

マタイによる福音書14章22～36節

主イエスはひとりでおられることを優先された。祈るためであった。主はひとり父に祈られた。その祈りの道程がわれらにも与えられている。ひとりにこそ主が伴われる。ひとりとは主と共にあるというひとりになる。

弟子たちは主イエスから離された。そこには逆風が吹く。暗く荒れた中、悩まされて夜を過ごす。それは、信仰者全ての姿である。

主イエスを知り、その声を聞き、その御業を見ているものでも、眠られぬ嵐の夜を過ごす。

主イエスは湖上を歩いてこられた、地上を歩みたいいつもの姿であった。主が近付かれることに障害はない。しかし、弟子たちは恐怖のあまり叫ぶ。主が幽霊にさえ見える。恐れが目を遮る。

「安心しなさい」は9:2では「元気を出す」ヨハネ16:33は「勇気を出す」と訳される。弱っているものを励ますのは慎重でなければ。しかし、主イエスは人の弱さを負われる方だ。

主の励ましはペトロに一步を踏み出させた。主は「来なさい」と言われ、ペトロは主イエスの方を見て歩きだした。しかし、強い風を「見て」沈みかける。主イエスから目を離したのだ。そして助けを求める。主はそれを小さい信仰と言われた。二人が船に乗ると風は静まり、船の中の人は主を神の子と告白する。これは、今でも小さな信仰の信仰者の揺れ動く心の有様を見せている。われらは小さな信仰の信仰者である。

ここにある短い言葉をたどると「本当に、あなたは、神の子です」という告白にたどり着く。教会は船とされてきた。小さな信仰、疑う者たちを乗せてきている。主がそこに近付かれるとき、礼拝が成り立つ。

その船は、主イエスを乗せ、病の人々の待つところに到着する。主は癒される。病人たちが主を待ち主はそこに行かれた。

小さな信仰の良さは自分の病を知っていることだ。疑い深く、不安で恐れる。小さな信仰だからこそ主に頼り、近づいて来られることを望み、喜ぶことができる。